

地 域 再 生 計 画

(道整備交付金)

地域再生計画の名称 : 安全な道路網の整備、地域産業の振興・若者
定住を促進する安全な町の基盤づくり

【計画期間 平成27年度～平成31年度】

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

安全な道路網の整備、地域産業の振興・若者定住を促進する安全な町の基盤づくり

2 地域再生計画の作成主体の名称

和歌山県、日高川町

3 地域再生計画の区域

和歌山県日高郡日高川町の全域

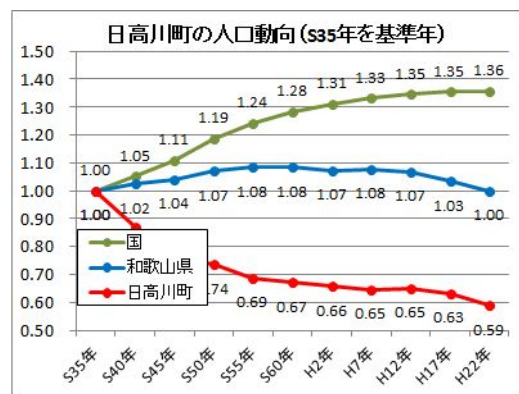
4 地域再生計画の目標

日高川町は、和歌山県の中央部日高郡の北部に位置し、平成 17 年 5 月 1 日に市町村合併(旧川辺町・旧中津村・旧美山村)により誕生した町である。

東西約 35km、南北約 10km、総面積 331.65km²の東西に細長い形をしており、和歌山県内では田辺市、有田川町に続いて 3 番目に広い面積であり、東は田辺市、南は田辺市及び印南町、西は御坊市及び日高町、北は広川町及び有田川町と接している。

自然環境では、^{しらま}白馬山脈、^{まづま}東南部には真妻山脈の山々が連なり、森林が総面積の約 9 割を占める緑輝くまちであるとともに、中央部には日高川が東西に大きく蛇行して流れ、道路網が整備される前は、川が交通路であり、川の流れに沿って集落が形成されており、都市部には見られない水と緑の美しく豊かな自然がいきづいている。また、美山温泉愛徳荘、かわべ天文公園、南山スポーツ公園、森林公園などの多彩で魅力ある観光・交流施設を有している。

人口の現況については、本町は、昭和 35 年の 17,878 人から平成 22 年には 10,509 人となり、50 年間の減少率が 41.2%に達し、全国平均や県平均を大幅に上回る勢いで人口減少が進むとともに、平成 22 年の年少人口割合が 13.3%、高齢率が 31.3%と深刻な少子化と高齢化が進展しており、本町の地場産業や地域文化を担っていく若者が少なくなり、町の存続が危ぶまれる現状となっている。



また、交通アクセスについては、町内を近畿自動車道紀勢線が縦貫し、川辺インターチェンジが設置されているほか、和歌山市方面に通じる国道 424 号が町の中央部を走るなど、広域道路網は形成されている。

しかし、町内の道路網は、日高川に沿って整備された主要県道御坊美山線が交通の

骨格となり、その他、御坊中津線など県 12 路線、町道 558 路線によって構成されているが、道路整備は立ち遅れており、いまだ車両の対向が困難な箇所・狭隘な箇所・急カーブなどの改良を要する箇所が多いほか、通行不能になると孤立する集落が多数みられる。



近い将来に発生が懸念されている南海トラフ巨大地震への備えや過去に類を見ない台風・集中豪雨など異常気象への対策としても、広域道路網に接続する主要県道御坊美山線を骨格に、迂回路など地域における交通円滑化に資する町内の道路網の整備が不可欠となっている。

本町の産業については、農業、林業、工業が行われているが、その中でも、町面積の 87.4% (28,999ha) を占める森林資源を活用した木材生産や日本一の生産量と知名度を誇る「紀州備長炭」、シイタケ、シキミ、サカキなど特用林産物の生産を行う林業が主要な地域産業となっている。



しかし、林業不振が長期にわたって続いてきた中で、林業従事者の減少、高齢化、さらに有害鳥獣による被害の増加なども相まって、地場産業を代表する林業の先行きが見えなくなるなど厳しい状況となっている。

本町は、第 1 次日高川町長期総合計画において、古くから恵まれた広大な自然や歴史・文化など個性あふれる地域資源を活かした「自主自立」の意識を持って、生き活きた住みよいまちづくりを目指している。そのためには、本町の文化や歴史を守り、発展させてくれる人材、そして彼らが定住するための基盤となる住宅・宅地の整備、人・物の交流を促進する道路ネットワークの整備、それに伴う災害時における円滑な避難体制の確保を推進し、便利で安全な街の基盤づくりを進めていくことを目標としている。

そこで、本町では「定住の促進・地域資源の活用・生活基盤の確保」をキーワードとし、この 3 つの流れを軸に各地域の豊かな自然資源や歴史・文化を受け継ぎながら、地域住民と行政が一体となり、地域の潜在能力の発掘や地域特性を総合的・一体的に開発することで、新時代に対応する地域振興施策の推進や、新たな日高川文化の創造・発信拠点をめざすことを再生の基盤としている。

以上の地域再生を総合的・一体的に推進するとともに、異常気象等による風水害など災害時における緊急アクセス路を確保するため、林道・町道・県道のネットワークの強化を図り、安全で快適な通行を確保するための整備を進め、産業の振興を積極的に図り、地域社会の自主自立を目指していく。

このため、「安全な道路網の整備、地域産業の振興・若者定住を促進する安全な町の基盤づくり日高川地域再生」を地域再生計画の基本方針として事業を行う。

(目標 1) 災害時救援ルートの確保

国道424号の災害時に迂回路 迂回路となる町道2ルートの内1ルートの整備を行う。

確保率：1/2ルート(平成26年度)→1/2ルート(平成29年度)→
2/2ルート(平成31年度)

(目標 2) 地区避難路の確保によりスムーズな避難の実現

地区集落から一時避難場所までの避難路 避難路のない地区(48世帯)から一時避難場所までの町道1ルートの内1ルートの整備を行う。

避難路の確保率：45世帯(平成26年度)→45世帯(平成29年度)→
93世帯(平成31年度)

(目標 3) 林業の振興と地域環境の改善

森林整備面積：620ha(平成26年度)→660ha(平成29年度)→
699ha(平成31年度)

森林資源の搬出時間の短縮：126分(平成26年度)→105分(平成29年度)→
84分(平成31年度) 42分の短縮

※各路線の森林資源の搬出短縮時間

	路線名	平成26年度	平成29年度	平成31年度
1	林道 ^{たき} 滝の上八斗 ^{うへはつとまき} 蒔線	57分	52分	46分
2	林道 ^{こだに} 小谷線	46分	34分	23分
3	林道 ^{やけんどうたかつおがわ} 八軒道高津尾川線	23分	19分	15分
	合計	126分	105分	84分

(目標 4) 道路整備による拠点施設へのアクセス改善

集落から都市部への走行時間短縮便益：38,339千円/年(平成26年度)→
25,559千円/年(平成29年度)→
12,780千円/年(平成31年度)

(目標 5) 自然エネルギーの安定供給の確保

木質パウダー需要量：112t/年(平成26年度)→140t/年(平成29年度)→
168t/年(平成31年度) 1.5倍の増

(目標 6) 道路整備による教育施設へのアクセス改善

定住促進住宅計画地から小学校までのアクセスしやすい道路の整備とあわせて定住促進住宅の整備により、
新規定住者数：0人(平成26年度)→5人(平成29年度)→10人(平成31年度)

(目標 7) 道路整備による災害時の安全性確保

一時避難場所へのアクセス確保で安心できる町営住宅として空き家の解消町営住宅入居者：8人(平成26年度)→10人(平成29年度)→12人(平成31年度)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

日高川町は、町内を近畿自動車道紀勢線が縦貫し、川辺インターチェンジが設置されているほか、和歌山市方面に通じる国道424号が町の中央部を走るなど、広域道路網は形成されている。しかし、道路整備が立ち遅れており、車両の対向が困難な箇所、狭隘な箇所などの改良を要する箇所が多いほか、通行不能になると孤立する集落が多数みられる。また、本町の地域産業である林業において、森林組合との連携で充実を図ろうとしている折、森林作業の効率化、生産コストの縮減を図るため搬出経路の迅速な整備が必要となっている。

そこで、本町の地域再生計画の基本方針である「安全な道路網の整備、地域産業の振興・若者定住を促進する安全な町の基盤づくり日高川地域再生」を達成するため、交通の骨格となる国道424号・主要県道御坊美山線を基軸に、災害時に町道

を迂回できる「町道皆瀬打尾線・大又岡本線」の整備などルートの多重性を確保す

るほか、集落の安全な避難に資する「三百瀬広場西回り線」や中津地区の若者定住

促進住宅と中津小学校を繋ぐルートとなる「大又岡本線」の整備を行い、安全な道路網の形成や定住に伴う生活環境整備を行う。また、地域産業である林業の振興を

図るため、森林からの搬出路となる「町道市川線・土居線」の狭隘道路の解消を

図ると共に、産業基盤である「林道滝の上八斗蒔線・新行線・小谷線・八軒道高津

尾川線」を整備し、木材の安定供給や木質パウダーの利用促進を図る。

安全な道路網の形成と、地域産業の振興により生活の基盤整備することで、本町の文化や歴史を守り、発展させてくれる人材、そして彼らが定住するための基盤となる定住促進住宅の整備や公営住宅の利活用により若者定住を促進する。

5-2 特定政策課題に関する事項

該当なし

5-3 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金【A3001】

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。
なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・町道：道路法第8条1項に規定する町道に認定済

町道皆瀬打尾線、町道土居線：昭和60年1月7日

町道市川線：昭和62年3月20日

町道大又岡本線：昭和58年9月22日

町道三百瀬広場西回り線：昭和62年3月20日

- ・林道：森林法に基づく紀中地域森林計画（計画期間：平成23年4月1日～平成33年3月31日）

林道滝の上八斗蒔線

林道小谷線

林道八軒道高津尾川線

林道新行線

[施設の種類] [事業主体]

- ・町道 日高川町
- ・林道 日高川町

[事業区域]

- ・日高川町

[事業期間]

- ・町道：平成27年度～平成31年度
- ・林道：平成27年度～平成31年度

[整備量及び事業費]

- ・町道 1.64km、林道16.24km
- ・総事業費 1,579,000千円（うち交付金 789,500千円）
町道 960,000千円（うち交付金 480,000千円）
林道 619,000千円（うち交付金 309,500千円）

5-4 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「安全な道路網の整備、地域産業の振興・若者定住を促進する安全な町の基盤づくり」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5-4-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-4-2 複数事業と密接に関連させて効果を高める独自の取組

該当なし

5-4-3 支援措置によらない独自の取組

(1) 企業の森の誘致

内 容 平成15年に「体験から交流へ、交流から定住へ」の方程式の中で企業が社会貢献事業(CO₂削減)とし取り組みをはじめた「企業の森」として、最初にユニチカ労働組合と貸与契約を結んで以来、現在では日本労働組合総連合会和歌山県連合会、セイカグループ、紀陽銀行、東洋紡株

式会社、社団法人和歌山県宅地建物取引業協会、三井住友信託銀行株式会社、JA共済連和歌山、本州化学工業株式会社 和歌山工場、丸紀木材工業株式会社の10社となった。さらに、森林資源の整備を進めていくため、希望する所有者と企業の仲介を推進し、企業の森の拡充を図っていく。（和歌山県支援事業）

実施主体 日高川町

実施期間 平成15年2月～平成35年3月

(2) バイオマスエネルギー事業

内 容 近年、地球温暖化等の環境問題への意識の高まりにより、森林の持つ多面的機能が重要視され、森林資源の循環的な利用の必要性が求められる中、日高川町総面積の87.4%が森林である特徴を生かし、身近なエネルギー源として平成22年度より森林で発生した間伐材等を燃料化した木質パウダーによるバイオマスエネルギーの利活用を実践していく。（日高川町単独事業）

実施主体 和歌山県森林組合連合会、日高川町

実施期間 平成22年4月～平成32年3月

(3) 若者定住促進事業

内 容 本町では、人口減少や少子高齢化が顕著に進んでおり、それに伴い、小・中学校の児童・生徒数が減少し、統廃合が進んでいる。こうした問題を解決するため、平成27年度に「若者定住促進住宅設置モデル事業（地域行事等に積極的に参加する若年の永年にわたる定住を促し、地域コミュニティの強化と活気ある地域づくりに寄与する）」の施策を実施していく。平成25年度には、第一回「婚活支援の実施」を行い、農林家の後継者対策等を推進した。（日高川町単独事業）

実施主体 日高川町

実施期間 平成26年4月～平成36年3月

(4) 地域再生の核を担う都市住民と農山村集落の交流

内 容 以前より交流拠点として各施設の整備を進め、自然環境を活かした交流プログラムや、農林業体験・手作り体験など農林業・商工業と連携した参加体験型プログラムを行い、多様な交流を通じ、交流人口の拡大や定住人口の確保・拡大へと結びつけてきた。平成13年度から取り組んできた体験型観光については、1年目111人/年から、平成25年度では3,406人/年と増えてきており、さらに拡充を図っていく。

（日高川町単独事業）

実施主体 ゆめ倶楽部21

実施期間 平成14年2月～平成34年3月

(5) 滞在型観光、教育旅行の推進～民泊家庭の確保

内 容 観光協会やゆめ倶楽部21、(株)本家さぬきやグループ等との連携のもと、近年整備をすすめてきた各観光・交流施設を利用した、参加体験・滞在型の観光・交流をさらに積極的に進め「体験から交流へ、交流から定住へ」のシステムの実証を示していく。

更に、近年は全国的に民泊での修学旅行が人気となっており、平成25年度に民泊での修学旅行として初めて、東京の中学校の受け入れを行った。また、海外（主に、マレーシアや台湾などのアジアの高校生、大学生）からの民泊受入にも力を注いでおり、平成20年度から始まった「21世紀東アジア青少年交流後継事業」にも参画し、韓国の高校生25人が本町に滞在し、農作業やそば打ち体験など日本の生活文化を体験した。海外の学生の間で日本の田舎の家庭に滞在し生活を体験することが非常に人気であるため、今後も積極的に民宿受入に取り組んでいく。（日高川町単独事業）

実施主体 日高川町観光協会、ゆめ倶楽部21

実施期間 平成20年4月～平成30年3月

(6) 産学官の連携で地域振興の拡大

内 容 シンクタンクの役割を果たす和歌山大学（経済学部橋本ゼミ）との地域共同研究にかかる連携は、平成15年度から取り組んでいて一定の成果を上げつつあり、更に平成19年度からは、和歌山大学（観光学部地域再生学科）と連携し、平成25年度には「都市農村交流事業に関わる地域内創発効果」についての研究に取り組み成果報告書をまとめることができた。また、平成20年度より「学生参画地域づくり体制サポートモデル事業（様々な問題を抱える中山間の農村において学生が参画した地域づくり支援）」と「地域インターンシップ計画」を実施している。今後さらなる活動に併せて、他の大学との連携にも積極的に取り組んでいきたい。（日高川町単独事業）

実施主体 国立大学法人和歌山大学、ゆめ倶楽部21、日高川町

実施期間 平成15年4月～平成35年3月

(7) 新規就農者の確保と遊休農地の活用

内 容 高齢化が進み耕作放棄農地が増加の一途を辿る現状であり、更に鳥獣害の被害による生産意欲の低下が追い打ちをかけている。こうした課題に対処するために、若手の新規就農者の確保とUIターン者確保のための手段として、和歌山県や認定NPO法人ふるさと回帰支援センターと

の連携により、日高川町の農業のPRを機会あるごとに提供し積極的な人材確保に努めている。

さらに、本町の農地面積のうち約8%は遊休農地となっている一方、貸し農園への要求が高いため、町が農地法の特例に基づく貸し出し農園を提案し、現在町が仲介する形式で都市住民に貸し出している。今後も貸し出しを推進し、遊休農地の解消を図っていく。（和歌山県支援事業）

実施主体 和歌山県、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター、日高川町
 実施期間 平成19年4月～平成30年3月

5-5 計画期間

平成27年度～平成31年度

6 目標の達成状況に係る評価に関する事項

6-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に和歌山県日高川町が必要な事務事業評価等を行い、速やかに状況を把握する。定量的な目標に関わる基礎データは、和歌山県日高川町の建設課、林業振興課、企画政策課、住民課の各種実績、森林組合が管理するデータを用い、中間評価、事後評価の際には、各種データを確認することにより評価を行う。

6-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	平成26年 (基準年度)	平成29年 (中間年度)	最終目標
目標 1			
災害時救援ルートの確保率	[1/2ルート]	[1/2ルート]	[2/2ルート]
目標 2			
地区避難路の確保率	[45世帯]	[45世帯]	[93世帯]
目標 3			
森林整備面積拡大	620ha	660ha	699ha
森林資源の搬出時間の短縮	126分	105分	84分
目標 4			
集落から都市部への走行時間短縮便益	38,339千円/年	25,559千円/年	12,780千円/年
目標 5			
木質パウダー需要量	112t/年	140t/年	168t/年
目標 6			
新規定住者数	0人	5人	10人

目標 7			
町営住宅入居者	8人	10人	12人

(指標とする数値の収集方法)

項 目	収 集 方 法
災害時救援ルート of 確保率	日高川町建設課による進捗度及び道路整備完了の事業評価より
地区避難路の確保率	対象地区に対する区長へのヒアリングより
森林整備面積拡大	日高川町林業振興課及び川辺町・中津村・美山村森林組合による毎年の実績（森林整備面積、森林資源の搬出時間）結果より
森林資源の搬出時間の短縮	
集落から都市部への走行時間短縮便益	日高川町建設課による進捗度及び道路整備完了の事業評価より
木質パウダー需要量	日高川町企画政策課による毎年の実績結果より
新規定住者数	日高川町企画政策課による毎年 of データ（定住促進住宅の整備住宅数、新規入居者数）結果より
町営住宅入居者	日高川町住民課による毎年 of データ（町営住宅入居者数、空家率の変化）結果より

・目標の達成状況以外 of 評価を行う内容

1. 地域産業の振興状況
2. 若者定住促進事業の進捗状況や今後の方針

6-3 目標の達成状況に係る公表の手法

4に示す地域再生計画の目標の達成状況を始め、中間評価及び事後評価の内容を速やかにインターネット（和歌山県日高川町役場建設課ホームページ）により公表する。

7 構造改革特別区域計画に関する事項

該当なし

8 中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当なし

9 産業集積形成等基本計画に関する事項

該当なし